

一席 沖繩県知事賞

夜に咲く花

与久田 正徳

夜香木しん夜に香りタタミ間に妻の初盆いやしの香り

サガリ花妻が好きだと言った花つぎつぎ咲いて月は欠けゆく

サガリ花つぎつぎ咲いてウータイの太鼓にあわせかすかにゆれる

ふと香るバナナがみのるそのそばでドラゴンフルーツしずかに咲いて

月に向き顔の大きさをほどに咲くドラゴンフルーツ朝まで香る

二席 沖縄県文化振興会理事長賞

佐々木正栄

ちちははの暮らすみちのく雪の町スルメがとどく林檎がとどく

雪んこや赫かがやくいのち木守柿白いちめんの辺境の村

セシウムと聞き深海に降る雪を想うセシウムという名哀し

悔やんでも悔やみきれない真っ直ぐに歩んでこれたかもしれぬ道

骨凍みる北の朝市雪しぐれ切々とふれ悔恨の海

佳作

弔ひの雑事に追はれ母の死に泣く事さえも忘れぬし彼の日

葬送の車中に涙の込みあげぬ終ひの別れか垂乳根の母

悔しさも悲しみもみな清めらる年経る程に昇華されゆき

子育てに悩める若き母の声聞きつつ今日の健診ボランティア

遠浅に潮干狩する背せな光る屋我地の磯に柔ら陽の射す

仲里博恵

佳作

花の陰で

仲本恵子

君を待つ研修二年は二千日若き吾が日にグロリオサ燃ゆ  
デンファレの花が亜細亜を渡り来ぬ晴れて日本の沖縄の地に  
スイトピーの束を左へ右手には抱っこをせがむ二人子寄せり  
天空へ虹架くるごとブーケトス島の浜辺に婚の花咲く  
検体の更新終へて夫の手は水上げを待つ地産の薔薇へ

佳作

東恩納 ぎよし

猛暑日の汗を纏いて喪主となる笑みて涼しき遺影に癒され

晴女母の葬送汗光る夏の日差しに黒衣こくいも焼けて

墓庭はかなをブルーシートに日除けして納骨の儀の鈴鳴り響く

開きたる納骨口の番人たる父の骨壺シルヒラシに座す

母迎え父はみ墓のひとつ奥へ姿隠して墓口はかぐちを閉ず